

支援センター名	那須教育事務所生涯学習ボランティアセンター		
所在地	〒324-0056	栃木県大田原市中央1丁目9-9	
連絡先	Tel 0287-23-2177	Fax	0287-23-2193

## 事業の概要とポイント

明日の地域のリーダーとなるべく高校生を対象にボランティア養成講座「輝け！高校生！ボランティアチャレンジ！」を開催し、市町村教育委員会や社会教育団体、ボランティア団体と連携を図りながら高校生ボランティアの資質の向上を図った。

高校生がボランティア活動を企画したり運営をしたりして、ボランティア活動の実践力を養うことにより、地域活動の活性化を図ることがポイントとなる。

## 関係した学校・団体等の名称

ボランティアグループ「自然体験塾」、旧西那須野町教育委員会、西那須野町子ども会連合会、西原小児童育成ふれあい会

## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口 旧西那須野町 46,300人  
旧大田原市 56,600人

西那須野町は、平成17年1月1日の市町合併により那須塩原市となった。旧西那須野町は、扇状地のため、水が少ないことから明治まで人の居住を拒み続けた地区である。明治18年に先覚者の努力により、那珂川上流から取水しての用水路「那須疏水」が完成し、寝食を忘れ血と汗にまみれて働く人々の手で開墾が進められたという歴史がある。以後、農業の町として発展してきたが、現在では高度経済成長により第二次・第三次産業も発展し、高速道路や新幹線も整備された。昭和49年には東北縦貫高速自動車道が開通し、インターチェンジが設立され、首都圏との時間的距離が大幅に短縮され、県北の流通基地としての性格も帯びてきた。

一方、大田原市は、室町時代から、那須家の家臣大田原資清が大田原城を築城し、現在の市街地の基礎がつけられた。



江戸時代になって、大田原氏の城下町として栄えるとともに、旧奥州街道の宿場町として活気があふれ、大いににぎわった。

明治4年、廃藩置県によって「大田原県」が誕生し、のちに「栃木県」に統合されると、県の支庁や中央官庁の出先機関が置かれ、明治22年に「大田原町」となった。さらに、昭和29年12月、大田原町、金田村、親園村が合併して「大田原市」になった。以後、野崎村との分割合併や西那須野町の一部編入を経て、昭和30年11月、佐久山町との合併により、現在の「大田原市」の姿になってきた。

大田原市の工業は、市の誘致した優良ハイテク企業に代表されるが、地場産業も力を蓄え着実に成長を続けている。

また、平成7年には、わが国初めての医療専門職を養成する大学を誘致するなど、教育面での充実が図られている。

平成17年10月1日には、黒羽町と湯津上村との合併により新大田原市が誕生する予定である。

## 企画から活動までの経緯

### 【自然体験塾】

平成16年7月21日 ボランティア養成講座「輝け！高校生！ボランティアチャレンジ！」の第1回講座において、自然体験塾長から高校生ボランティアを受け入れたいとの要請があった。早速、「自然体験塾」を講座として取り入れ実践活動として行うこととなった。

8月 8日 高校生ボランティアが「自然体験塾」でのボランティア活動計画を立てた。「宝さがし」を企画し、地域の子どもたちと遊ぶこととなった。

8月20日 高校生ボランティアが、「宝さがし」の準備をするために自主的に集まり、宝物作り等の製作活動を行った。

9月11日 「自然体験塾」の当日、「自然体験塾」の活動全般にわたり、ボランティア活動を実践した。特に、「自然体験塾」のメニューの中に高校生ボランティア企画の「宝探し」遊びをボランティア活動として実践した。

### 【西那須野町子ども交流会】

平成16年7月21日 ボランティア養成講座「輝け！高校生！ボランティアチャレンジ！」の第1回講座にて、西那須野町子ども会連合会指導員と西那須野町教育委員会生涯学習課から高校生ボランティアを受け入れたいとの要請があった。早速、「西那須野町子ども交流チャレンジランキング大会」を講座として取り入れ実践活動を行うこととなった。

7月27日 高校生ボランティアが「西那須野町子ども交流チャレンジランキング大会」の計画を立てた。

8月6, 9, 10, 11日

高校生ボランティアがチャレンジランキング大会の準備を行った。

9月16日 高校生ボランティアがチャレンジランキング大会の準備を行った。

9月26日 「西那須野町子ども交流チャレンジランキング大会」の当日、チャレンジランキングのゲームをボランティア活動として実践した。

#### 【西原小児童育成ふれあい会】

平成16年7月21日 ボランティア養成講座「輝け！高校生！ボランティアチャレンジ！」の第1回講座にて、西原小児童育成ふれあい会と大田原市教育委員会生涯学習課から高校生ボランティアを受け入れたいとの要請があった。早速、「西原小児童育成ふれあい会チャレンジランキング大会」を講座として取り入れ実践活動を行うこととなった。

10月17日 高校生ボランティアが「西原小児童育成ふれあい会チャレンジランキング大会」の計画を立てた。

11月 6日 「西原小児童育成ふれあい会チャレンジランキング大会」の当日、チャレンジランキングのゲームをボランティア活動として実践した。

### 事例の展開内容（特色など）

「自然体験塾」は、地域の大人のボランティアが中心となり、地域の大人と子どもが共に自然体験をする活動である。回を重ねる毎に、大人と子どもの間に立つ高校生や大学生が関わるのが望まれてきた。あらゆる年代の人々が一同に会し、活動することが「自然体験塾」の発展・充実につながると考えられていたからである。

そこで、より多くの高校生が、高校生の発想で年齢の近い子どもたちと活動することは、それを取り巻く大人にとっても高校生とコミュニケーションをとる絶好のチャンスでもあり、ふれあい学習活動として有効なことであると考えた。那須教育事務所生涯学習ボランティアセンターのコーディネーターは、その点を意識しながら、自然体験塾に高校生ボランティアのコーディネートを行った。

当日は、会場となる神社の境内に、地域の子どもと保護者やボランティア約200人が集まり、「木製バッジ」作りや高校生ボランティアが企画した「宝さがし」、さらに参加者全員で取り組んだ全長20メートルの「流しそうめん」などの体験活動を行い、大いに盛況だった。なお、集まってきた保護者に対し、家庭教育オピニオンリーダーが「家庭教育の重要性」の座談会を行ったことは見逃せない。

また、「西那須野町子ども交流チャレンジランキング大会」は、西那須野町子ども会連合会と西那須野町教育委員会が主催する事業であるが、平成14年度から「チャレンジランキング大会」を採用している。那須教育事務所生涯学習ボランティアセンターのコーディネーターは、チャレンジランキングのゲームに精通している高校生ボランティアのコーディネートを行った。高校生ボランティアが、子どもたちが挑戦したくなるようなゲームを企画したことは、約650人という多くの参加者を集めることにつながった。体育館に各ゲームコーナーを設置し、高校生ボランティアと子ども会育成会の役員が協力して、運営したことは、ゲームをする小学生と保護者、そして高校生がふれあう場となった。

さらに、「西原小児童育成ふれあい会チャレンジランキング大会」についても、高校生ボランティアをコーディネートしたことにより、年代の近い高校生と小学生、そして大人が楽しくふれあう場となった。

## 企画・活動する上でのポイント、留意点など

高校生ボランティアをコーディネートするにあたり、コーディネーターは、高校生ボランティアの自主性を尊重しなければならない。高校生ボランティアが自分たちで企画したボランティア活動を行うことによって、より積極的なボランティア活動ができるからである。受け入れる団体等の大人は、高校生ボランティアの自主的活動を促すため、高校生の思いを十分に理解することが重要である。

## 評 価

地域社会が、高校生ボランティアを受け入れたいというニーズがあることを再確認できた。また、高校生は、ボランティア活動をやってみたいと考えているものの、ボランティア情報がなかったり、ボランティア活動の内容についても偏りがあったりして具体的活動に結びつかないでいた。今回、ボランティア養成講座「輝け！高校生！ボランティアチャレンジ！」を開催したことにより、高校生がボランティア活動について学び、高校生ボランティアを地域活動の中にコーディネートできたことは、地域にとっても、高校生にとっても有意義なことであり、地域の活性化につながったと考える。

今後は、講座を修了した高校生や大学生、社会人となった人たちに、ボランティア情報を提供するとともに、修了生を核としたネットワークを活かしてコーディネートできればと考える。

## 活動風景



自然体験塾の様子



チャレンジランキング大会の様子

執筆者職・氏名： 那須教育事務所副主幹兼ふれあい学習課長 福崎 政弘